

特集

消防団員にインタビュー

仕事をもちながら、日夜防災活動に尽力されている消防団員。火事や災害があれば、市民の安全のためいち早く現場に駆け付け、消火・救援活動に奔走されています。

今回は、そんな消防団員の皆さんの思いを聞くため、昨年(2022)の第54回滋賀県消防操法訓練大会小型ポンプ操法の部で優勝された第7方面隊(能登川地区)第22分団の方々に話を伺いました。

お父さんは地域のヒーロー

◎消防団の魅力は？

■年齢や自治会の枠を超えたつながりができる。

■みんなで助け合ったり、年齢が離れていても気軽に話せてすごく雰囲気がいい。

■ポン操など、一つのことに対してかける思いや充実感、達成感を実感できた。

■練習を介して団員間の会話が増え、団結力が増した。

■正義感が芽生え、いざ火事や台風の際には、「一番に行かない」という気持ちを持つようになった。

■選手はやらされ感ではなく、やらねばならないという責任感を持てた。

■サポートメンバーも選手のためにどう準備していくかを常に考えるようになった。

■運動する機会を得てダイエットできた(笑)。

■この歳で怒られるとは思わなかった(大笑)。

◎消防操法訓練を通じて得られたことは？
■やり遂げようと思う気持ちが自分に生まれた。

◎職場や家族の理解は？

■職場の上司が消防団経験者なので理解はある。練習も「頑張れ」と送り出してくれる。職場の上司の理解があまりなく、仕事に出動がかかると職場に迷惑をかけていると感じる。

■台風がくれば出動するものだと家族は思っている。

■出動中に家族から連絡があったときは、家族も不安な思いをしているのかと思った。

■消防服を着て出動するので、子どもからは消防が本職だと思われていた。

■優勝したときに、子どもから「4か月間よく頑張ったね」と言ってもらえた。

◎最後に

■「消防団は酒を飲んでいられるだけ」「年中訓練している」というイメージが強いが、実際はそんなことはなく、メリハリをつけてしっかり活動している。

■実際に経験すれば得られるものがたくさんあるので、まずは体験してほしい。

■団員確保は大変だが、自治会にも理解していただいているのはありがたい。

インタビューに参加いただいた皆さん

- 分団長 仙波直一
- 副分団長 中澤宏昭
- 部長 北浦純之
- 副部長 松田博司
- 班長 大前直樹
- 団員 中尾大樹
- 団員 澤田大樹

